



# NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

## MANO a MANO

“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です



### 『新年を迎えて』



当会副理事長  
東京医科大学

植木 彬夫 [医師]

新年おめでとうございます。昨年を振り返り、達成感を得た方、あるいはもう少し頑張ればよかったと思う方、それぞれがまた新たな年を迎えたことと思います。糖尿病の治療に限っても、昨年は様々なことがありました。

一つは、日本における高齢化に伴う高齢糖尿病患者が増えてきたことです。いままで我々が目指してきたHbA1cの値が、2013年の熊本宣言以来変わりました。DCCTやUKPDSのような大規模な研究の結果得られたHbA1cは、低いほど合併症が少ないという定説に当てはまらないことが多くなってきました、それはこれらの重要な研究は20代から50代までの患者さんを対象としていたからです。2000年以後に報告されたACCORD試験をはじめとする高齢者を対象とした試験では、下げすぎたHbA1cは全死亡率を高めるとの発表は衝撃的でした。西東京でもこの頃から高齢者糖尿病や認知症をテーマにした研究会が発足していました。熊本宣言が示され、昨年は「高齢者糖尿病」「高齢糖尿病と認知症」などのテーマが関連学会や講演会で取り上げられることも多く、意識改革が進んだ年であったと思います。また高齢者の治療に関して「医療」と「介護」の連携に対する模索が本格的に始まった年でもありました。

もう一つ大きな変化として、食事療法の基本である「糖尿病食事療法のための食品交換表」の中身が変わったことです。最近の低糖質食の考え方も取り入れ、食品構成のバランスとして、炭水化物の量を50%、55%、60%の3種類とする基本食が提示されました。しかし、この使い分けについて交換表のなかでは「症状や合併症の有無、年齢、食習慣も考慮して決められます。患者と主治医や管理栄養士と相談して決めます」とあり、また、「炭水化物を50%あるいは55%にすると、たんぱく質が標準体重1kgあたり1.2gを超える場合があり、腎症2期以降では使用できないことがある。また炭水化物が少ないと脂質の摂取過多になるので注意が必要」とあります。しかし、臨床の間からは実際にはどのように使い分けるかがわからないし、医師からの指示も無いのが現状だとの声が多いのも事実です。今年、2型糖尿病の栄養指導における炭水化物の比率について、多くの経験とエビデンスをつくっていかねばならない年だとも思います。また、薬物療法においても昨年の4月に尿糖排泄促進薬であるSGLT2阻害薬が市場に出ました。全く新しいコンセプトのもとに開発された薬剤で、血糖値の低下とともに体重の減少なども期待できる薬剤です。しかし一方、尿糖排泄とともに尿量も増加するため十分な補水をしないと脱水や時にはケトアシドーシスの可能性も指摘されていました。薬は常に両刃の剣です。この新しい薬も生半可な知識で使うことで、昨年では既に5名の方が亡くなっています。

新しい年を迎えるにあたり、私たちは糖尿病患者さんの背景や環境を加味し、また食事療法や薬物療法に関しても常に、新たな知識や技術を学び習得していくことを忘れないようにしたいと思います。西東京臨床糖尿病研究会の会員の皆様、常に患者目線を忘れないで療養指導に携わっていかれることを祈念します。

2015年 元旦

読んで  
単位を  
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。当会会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。  
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。)

### 『問題』

2型糖尿病で喫煙している患者の発言を以下に示す。  
健康信念(ヘルスベリーフ)モデルにおける「罹病性」の認識不足なのはどれか、1つ選べ。

1. 「タバコをやめたら太るでしょう？」
2. 「何度も禁煙していますが、意志が弱くて」
3. 「家族皆吸いますが、誰も肺癌になっていないので自分も大丈夫」
4. 「肺癌になったらそりゃ大変だと思います」
5. 「止めたほうがいいのはよくわかっています」



(答えは7ページにあります。)

## 研究会等の実施報告

## 第17回 西東京糖尿病心理と医療研究会

平成26年9月6日(土)・7日(日)  
府中グリーンプラザ

【報告】 当会理事 西東京糖尿病心理と医療研究会代表 朝比奈クリニック

朝比奈 崇介 [医師]

去る平成26年9月6日(土)・7日(日)に、府中グリーンプラザでイムス板橋リハビリテーション病院の鬼澤重光先生を講師に招いて、「糖尿病と日常臨床に役立つ動機づけ面接1.5日ワークショップ」を開催した。今回は動機づけ面接3回ワークショップの集大成として、これらの知識を忘れないうちに糖尿病臨床の現場でこの動機づけ面接をどのように活かすのか、を主眼にして欲しいと鬼澤先生にお願いして叶ったものである。今までのワークショップと異なり、動機づけ面接の初心者の参加にはご遠慮願って、現場適応のエッセンスを皆で練習した。



糖尿病の臨床現場でも薬物中毒患者でも、正論を患者にぶつけていては相手の反論の余地はない。そうすると患者は意見を言わず、ひたすら押し黙るか自己の考えを隠すかになる。しかしこれでは、何故療養行動を取れないかについて私達医療者は理解できず、根本的に解決することは出来なくなってしまうのだ。

動機づけ面接の根底に流れるものは、患者を受容すること(Acceptance)、思いやること(Compassion)、そして現状を変えたい気持ちを喚起させ(Evocation)、協働して(Partnership)計画をたてること(以上まとめてPACE)である。これは個人的にはEmpowermentや内発的動機づけをするためには具体的にどのように行うのか?という技術として表現したものであると考えている。

動機づけ面接の練習をしていて、これは患者の言葉の揚げ足取りではないか?と思うことはある。しかし真に患者を受容し、思いやることが出来ていれば、そんな患者の望まないプランなど選ぶはずはない。本当にそのプランでいいのか?本当に無理に言わせられたプランではないのか?それらを一步一步患者と確かめた上で協働してプランを練れば、言い方一つで患者の自己効力を上げることも落とす事も、やる気を出させることもなくすことも可能であることを知るであろう。心が入っていれば動機づけ面接も大事な技術であり、心が入っていなければただの間の抜けた患者の揚げ足取りとなる。心が入らなければ肝に命じて置かねばならない。

## 研究会等の実施報告

## 第17回 TAMA生活習慣病フォーラム

平成26年9月13日(土)  
調布市文化会館たづくり

【報告】 当会理事 TAMA生活習慣病フォーラム代表 かたやま内科クリニック

片山 隆司 [医師]

平成26年9月13日(土)に調布市文化会館たづくりにて、『第17回TAMA生活習慣病フォーラム』が開催されました。テーマは「糖尿病の集学的治療～合併症予防スペシャル～」。

第I部では、武蔵野赤十字病院 内分泌代謝科 部長 杉山徹先生より、細小血管障害を防ぐためのアプローチ。糖尿病三大合併症は患者さんの生活の質を低下させるので患者さん自身に血糖コントロールの重要性を理解していただき合併症の発症・進行予防の意識をもっていただく事の重要性をお話していただきました。第II部では、日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科 講師 小谷英太郎先生より、大血管障害を防ぐためのアプローチとして心血管イベントに関する各種EBMを提示していただくと共に、最近発売されたSGLT-II阻害薬を含め経口糖尿病治療薬の特性を解説していただきました。第III部では、私が高齢糖尿病患者の現状を示し、新しく提唱されているフレイル・認知症高齢者糖尿病に関する治療の原則を解説し、あらためてチーム医療の重要性を提案しました。

終了後のアンケートにおいても、業務のモチベーションが上がりましたなど、100%に近い方から高い満足度を得、次回も参加希望との回答をいただき、多くの反響を得ることができました。



杉山先生



小谷先生



片山先生

## 研究会等の実施報告

## かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会 第3回例会

平成26年9月12日(金)  
立川市女性総合センターアイム

## 【報告】 当会評議員 かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会代表 たもり内科クリニック 多森 芳樹 [医師]

平成26年9月12日(金)、立川市女性総合センターアイムにて、第3回となる『かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会』が行われ、9名のかかりつけ医の先生方にご参加をいただきました。

今回は、症例検討を行いました。高村内科クリニックの高村先生が、自験例から3例ご用意くださったのですが、質疑応答、時には本筋をはなれて枝葉の議論も交え、侃侃諤諤(かんかんがくがく)の議論で、1例目で、ほとんど予定時間を使い果たしてしまいました。そんななかで「尿ケトン陽性の時は、どう対処するか?自分で診るのか?紹介するのか?」「通院していた糖尿病患者さんが、うつ状態・うつ病になったとき、その患者さんとどう向き合うのか?」など、糖尿病診療に関することについて、出席いただいた先生方・コメンテーターの先生方と意見交換を行いました。

現在、糖尿病診療圏ごとに、病診連携・専門医とかかりつけ医の連携が模索されています。糖尿病療養指導は病院・専門医に任せて、その長い受診間隔の間を診療所として埋めるといった連携の形もあると思います。そして、もう少し主体的に糖尿病診療と向き合い、病院・専門医と連携していく形もあると思います。どのような連携の形をとるのかは、それぞれのかかりつけ医に委ねられるものでしょう。

次回の第4回も、症例検討形式で行う予定です。糖尿病診療にご興味のある方・講演拝聴型の勉強会では物足りなくなっている方、是非一度、のぞいてみてください。



## 研究会等の実施報告

## 第15回 西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

平成26年9月27日(土)  
アレアホール

平成26年9月27日(土)15時より、『第15回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会』が立川市のアレアホールにて開催されました。

今回は「1型糖尿病患者さんの心理について」をテーマとし、39名の医療スタッフが参加しました。

特別講演では北里大学メディカルセンター小児科の大津成之先生にご講演いただき、摂食障害など、心理的問題を抱えた思春期の1型糖尿病患者さんへの心療内科的アプローチについて、具体的症例を用いてご解説いただきました。そこでは、精神科との連携や、九州大学病院心療内科での取り組み、北里大学での小児1型症例の解析などが紹介され、患者さんの苦悩に共感し、辛抱強く無理せず焦らず対処し、相手の思いを聞き出す姿勢が重要であることが示されました。また、恒例の症例検討会では、立川相互病院の山崎英樹先生、宮城調司先生より「1型糖尿病難渋症例」についてご発表いただきました。

また、今回から初の試みとしてグループディスカッションや、携帯電話、スマートフォンを用いた集計システム「モバイルdeアンサー」が導入されました。特別講演演者の大津成之先生にもご参加いただき、インスリン製剤の選択や単位数の調整方法から、患者心理の分析とアプローチ法、患者さんを取り巻く家族への対応まで含め、熱く議論がされました。



## 研究会等の実施報告

## 第14回 南多摩糖尿病教育研究会

平成26年10月2日(木)  
日本医科大学多摩永山病院

【報告】 当会評議員 南多摩糖尿病教育研究会代表 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]

去る10月2日(木)、日本医科大学多摩永山病院会議室にて開催され、25名の医療従事者の方々にご参加いただきました。第14回テーマは「糖尿病とシックデイ」でした。

多摩センタークリニックみらい 箱木まゆみ先生より、足胼胝からの蜂窩織炎の1例をご紹介いただき、(株)大和調剤センター ウラン薬局 浅田美子先生より、薬局でのシックデイ時の取り組みについて発表いただきました。後半は医療従事者として私たちはどう対応すべきなのか、職種別における解決策などをグループディスカッションし、クリニックみらい国立 宮川高一先生より、「シックデイの基本について」をレクチャーいただきました。

今回も多数の先生方の参加を得て、盛会のうちに幕を閉じました。次回は、2015年3月5日に日本医科大学多摩永山病院会議室にて「糖尿病とケースメソッド」をテーマに開催いたします。



## 研究会等の実施報告

## 第15回 糖尿病予防講演会

平成26年10月18日(土)  
ルミエール府中

【報告】 当会理事 第15回糖尿病予防講演会実行委員長 HECサイエンスクリニック 調 進一郎 [医師]

平成26年10月18日(土)、ルミエール府中にて『第15回糖尿病予防講演会』が開かれました。本講演会は東京都糖尿病協会が西東京臨床糖尿病研究会に運営を委託して行われている講演会で、毎年、当会の理事が実行委員長となり会を計画しています。

今回ご講演いただいたのは、1型糖尿病患者さん、管理栄養士(福島芳子先生)、健康運動指導士(馬場美佳子先生)、小児科医の天津成之先生です。例年参加者は比較的高齢者が多いため、タイトルは“達人と師範に学ぶアンチエイジングな食事と運動”としましたが、今年の裏テーマの一つは1型糖尿病です。日本では2型糖尿病患者が多いため、1型糖尿病のことはあまり知られていません。そこで、成人発症の1型糖尿病患者さんをお招きし、血糖の上がりにくいスイーツを紹介していただくとともに、糖尿病に関心のある来場の皆様にも1型糖尿病があることを知っていただくようにしました。また、普段聞くチャンスの少ない小児科医の先生をお呼びし、小児1型糖尿病にも触れていただきました。もう一つの裏テーマはTDJ(Team Diabetes Japan)の紹介です。実は福島先生も馬場先生も天津先生、私も翌日10月19日にはタートルマラソンに参加するTDJ仲間なのです。アンチエイジングや糖尿病予防には運動が大切であることをお話ししながら、TDJの基本理念『糖尿病だからと言って出来ないことはない(No Limit)』をお伝えしたいと考えて組んだプログラムでした。

菅野一男先生に開会の辞を、植木彬夫先生に閉会の辞をいただき、約160人にご参加いただいた会を無事に終了することができました。いつもご尽力いただいている当会の事務局の方々、糖尿病協会の皆様にもこの場を借りて深謝いたします。ありがとうございました。



調先生



福島先生



天津先生



馬場先生

## 研究会等の実施報告

## 第27回 武蔵野糖尿病研究会

平成26年10月18日(土)  
三鷹産業プラザ

平成26年10月18日(土)三鷹産業プラザにて、『第27回武蔵野糖尿病研究会』が開催されました。

一般演題は「Long-acting型GLP-1アナログの適した患者像 -自験データからの考察-」と題しまして、杏林大学医学部 第三内科 講師 保坂利男先生にご講演いただきました。GLP-1がなぜ日本において普及しないのかについてお話しいただいた後、自験データをご紹介いただいたうえでGLP-1製剤が適した患者像について下記ポイントをご紹介いただきました。

1. 経口薬未治療患者か、メトフォルミンやDPP4阻害薬など $\beta$ 細胞を疲弊させない薬剤のみ使用している患者
2. 内因性分泌が正常(食後c-peptide3以上)、または保持(食後c-peptide2以上)
3. 過体重(BMI22以上)ただしBMI30以上はリバウンドが多い

特別講演は東京医科大学内科学第三講座 准教授 三輪隆先生より、「糖尿病診療から考える認知症」についてご講演いただきました。年々糖尿病患者、認知症患者が増加してきており、その関連性も明らかになってきたとのことでした。東京医科大学で実施した糖尿病患者に対するMMS Eによる認知症のスクリーニング結果もご紹介いただき、調査した患者の約3割に認知症の疑いがあり、思っているよりも認知症の患者は多くいるのではとのお話をいただきました。また、認知症を踏まえた糖尿病薬物療法にも言及され、認知症にも効果が期待できる薬剤としてインクレチン製剤をご紹介いただきました。

当日は37名のご参加をいただき盛況に終えることができました。



保坂先生



三輪先生

## 研究会等の実施報告

## 第19回 糖尿病療養担当者のためのセミナー

平成26年10月26日(日)  
東京経済大学

平成26年10月26日に『第19回糖尿病療養担当者のためのセミナー』が開催され、191名の方々にご参加いただきました。当セミナーは午前が講演会、午後は昼食セミナー(講義)及び分科会(グループワーク)形式中心となっています。

午前の部では、特別講演として大石内科クリニック 院長の大石まり子先生より『糖尿病患者に対するピアサポートとコーチング』と題してご講演をいただきました。大石先生のご講演では、コーチング理論に基づく糖尿病患者さんに対しての接し方について様々な角度から検証されていて、我々も改めて考えさせていただく非常に有効な時間となりました。また、高村内科クリニック・東京医科大学第三内科の植木彬夫先生より『糖尿病臨床試験デザインと結果の読み方～言葉と意味について～』の演題でご講演いただきました。研究発表では昨年の学会等で報告した、当セミナーの研究内容の発表が行われました。2人の先生方からのご講演及び研究発表では数多くの質問があり、非常に関心が高く、ニーズにあった講演となりました。午後の部はパートレクチャーと分科会へ、参加者がいくつかのグループに分かれる形式で行われました。パートレクチャーは専門の先生方による講義形式で、糖尿病治療に関する幅広い情報の提供がなされました。また分科会は全員参加型のグループワークが中心となっており、職種・施設の壁を越えて様々な意見や情報の共有がなされ、熱いディスカッションが繰り広げられました。参加していただいた皆様には、当セミナーを通じて得られた『学び』『気づき』が今後の診療の一助となる事を切に願っております。



## 【報告】 当会副理事長 第56回例会当番幹事 東京医科大学 植木 彬夫 [医師]

平成26年11月1日(土)、国家公務員共済組合連合会立川病院において『第56回例会(植木彬夫当番幹事)』が「見直そう、食事療法と運動療法」のメインテーマの下に開催され184名が参加しました。

第1部では、住友理事より企画委員会報告として現在行われている様々な事業について説明がありました。宮川理事からはCSII普及プロジェクトが行っている、メドトロニクス社とトップ社のCSIIの違いや使い方の普及への取り組みについて報告がありました。私、植木からは運動指導スキルアップセミナーの必要性和今後の展望について報告いたしました。

第2部では、深谷祥子会員より、改訂された食品交換表の変更になったポイントについての解説があり、倉増恵梨会員は、運動が認知症の予防に有用である事について幾つかのエビデンスと、実際に手足を動かす運動を実践指導されました。最後に北里大学の山田悟先生からは、糖尿病食事療法における低糖質食事療法について判りやすく納得できる講演をいただきました。1日130gの糖質食は決して難しくなく、エネルギー制限食では得られない効果があることなどを新しいエビデンスをもとに紹介されました。山田先生が最後に述べた「糖尿病の治療は患者の生命予後、社会的予後を下させないと共にQOLを確保することにあります。したがってQOLを悪くする食事療法は避けるべきです」との言葉が印象的でした。

充実した内容でお得感のあった例会となりました。



住友先生



宮川先生



山田先生



植木先生

## 【参加者の声】 当会会員 医療法人社団糖和会 近藤医院 吉田 敦行 [医師]

療養指導の原点は患者さんの実生活や好みの周辺にあるように感じていますが上手に簡潔に言い表せません。第56回例会では全6名の講師の中に食事療法と運動療法の専門家が1名ずつおり、私達が忘れてはならない出発点に関する力強い宣言を伺うことができたと期待しました。

発行後1年を経た新食品交換表を題材とされたのは、東京医科大学八王子医療センターの深谷管理栄養士です。1960年代の食品交換表の統一から現在に至る発展の歴史をユーモラスに和やかに穏やかにお話しされ、「肩肘張らずに親しむように」というメッセージを感じました。深谷先生から会場の参加者へ食品交換表を日頃用いているか質問がありました。後ろは振り返りませんでしたが私より前方ではほとんど手が上がっていないようでした。講演内容からも、もちろん交換表には役立つ部分がある一方で、食事療法の必須の礎と断言しきれない、現場の素直な感覚を垣間見た気がしました。

高村内科クリニックの倉増健康運動指導士は認知症と運動について、豊富な研究データを引用され、説得力あるお話でした。引き続いて、脚と腕と頭を使った実技を皆で行いました。機会を見つけて医院でもやってみようという気持ちになりました。世間で喧伝される認知症の方のあたまや体のトレーニング法のほとんど全てがおそらく有効なのでしょうが、どういう環境でどの方法を選択するかという多様な選択の公式のようなものを提示することを、倉増先生は選択されませんでした。しかし、代わりに読み取ることができたのは、「理屈をなぞって満足せず、少なくとも自身で、可能なら仲間や患者さんと一緒に実感することが原点かもしれないね」というメッセージです。



深谷先生



倉増先生

## 当会の事業・委員会活動のご紹介 - 『実践栄養指導勉強会』の活動 -



実践栄養指導勉強会 事務局  
緑風荘病院

藤原 恵子 [管理栄養士]

### 「実践栄養指導勉強会」(第140回を迎えて)

実践栄養指導勉強会は、『地域の栄養士間での顔が見える連携とスキルアップ』を目標に1999年の5月に発足しました。当時、緑風荘病院に勤務しておられた田無病院の武井司先生にご指導をいただきながら、栄養指導に役立つ勉強会を続けてきました。講義形式の勉強だけではなく、栄養指導の実演やロールプレイ、症例検討、低たんぱく質の料理教室など行ったこともありました。2002年には当法人の间接事業にいただき、他職種の方や遠方から来られる方も年々増えています。2006年から2010年までは、HECサイエンスクリニックの副院長・調進一郎先生が当院に非常勤で来ていたことで、ご指導をいただきながら実施してきました。2011年4月からは緑風荘病院の内分泌代謝科に、糖尿病専門医の北村竜一先生が赴任されましたので、何度も講師をしていただいております。当院の酒井雅司院長には、会場として介護老人保健施設グリーン・ボイスの1Fフロアをお借りし、常に助言をいただいております。

多くの先生方に支えられて15年が経過しましたが、今後も西東京の先生方のご指導を賜りながら、栄養士のスキルアップと患者様の役に立つ勉強会を継続したいと思います。

### 連載コラム

テーマ

「フットケア」～全3回～ **第1回**

東京都立多摩総合医療センター 外来担当

日本糖尿病療養指導士 **高野 安世** [看護師]

### 「患者さんと私をつなぐフットケア」

当院の内分泌代謝内科外来のフットケアは、平成21年に開設され5年が経過しました。

開設当初は診察室の片隅を使い、物品も少なく、水道もない状態からのスタートでした。すべて手探りで医師と協力しながらひとつひとつ作り上げていきました。私は、平成25年5月より、前任者からの引き継ぎを受けて担当になり、早いもので1年半が過ぎました。現在は毎週水曜日3～4名の患者さんをケアし、延べ人数は269名になりました。

患者さんは入院すると、糖尿病教室に参加し、糖尿病、合併症、自己管理方法などの知識の習得と共に、糖尿病足壊疽の写真を用いてフットケアの重要性について学びます。壊疽にならないように足をケアしていくことは生活習慣の見直しと血糖のコントロールが基本であり、予防ケアが重要です。足を通してその人を診るということを大切にしています。患者さんが診察室ではなかなか言えないことでも、フットケアではつついとおしゃべりしてしまう…なんていうことがあればチャンスです。患者さんとともに何ができるか一緒に考え、患者さん自身が答えを見つける場としてのフットケアをめざしています。糖尿病医療チームと連携し、「最後まで自分の足で歩きたい」という患者さんの思いを大切に、日々私自身も学んでいます。



『答え』

**3**

下記の解説をよく読みましょう。(問題は1ページにあります。)

読んで  
単位を  
獲得しよう

『解説』

健康信念(ヘルスベリーフ)モデルは、疾病に対する認識が行動を予測するという理論で、①罹病性、②重大性、③利益性、④障害性の4つの要因があります。

①②③はセルフケア行動の促進要因に、④は阻害要因になります。①は合併症になりやすいことの認識で、「このままの状態が続けば私は合併症になるだろう」と感じる度合いです。②は「合併症になったらどれほど大変になるのか」、③は「行動をしてどれほど得をするのか」、④は「行動がどれほど負担・不利益になるのか」を感じる度合いです。

よって、選択肢3が①の認識不足に当てはまります。選択肢1は④、2は自己効力感(自信)の不足、4は②、5は③を表しています。①②を適切に高めて、③が大きく、④が小さくなるよう指導するのが理想的です。

## 研究会等のセミナー・イベント情報

 直接事業
  間接事業
  その他

 西東京CDEの会（旧：西東京CDE研究会） 第13回 症例検討会

 申込必要

テーマ：『在宅療養中の高齢糖尿病患者のケア ～医療と介護のシームレスな連携を検討しよう～』

開催日：平成27年1月22日（木） 19：00～21：00

場所：国分寺労政会館 3階 第3会議室（JR「国分寺駅」下車 南口徒歩5分）

参加費：当会会員・700円 一般・1,000円

申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。（締切：1月15日（木））

FAX：042-322-7478（宛先：当会事務局）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位

※詳細は同封の資料をご覧ください。

 糖尿病診療—最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座] 第34回 東京会場

 申込必要

開催日：平成27年2月15日（日） 9：45～16：00

場所：国立国際医療研究センター 研修センター棟 5階 大会議室（東京都新宿区戸山1-21-1）

参加費：3,000円（テキスト代を含む）

申込み：下記アドレス宛にEメールでお申込みください。「研修会参加希望」とのタイトルにて、希望会場、施設名、氏名をご明記ください。

Email：dm-inf1@hosp.ncgm.go.jp（締切：2月12日（木））

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

※詳細は当会ホームページをご覧ください。

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中

★日本糖尿病学会専門医更新単位：2単位申請中

★日糖協病療養指導医取得のための講習会：認定申請中

## 事務局からのお知らせ



当会ホームページでは、会員様からのお問合せ、会員情報の変更届けを常時受付しております。ホームページ画面左側に設置の「お問合わせフォーム」及び「登録情報の変更はこちら」をどうぞご利用ください。

## 《事務局業務の年末年始休業のお知らせ》

●当会事務局業務は、平成26年12月27日（土）～平成27年1月4日（日）までお休みさせていただきます。ご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒よろしくお願いたします。

## 《平成27年1月14日（水）に当会のホームページがリニューアルいたします。》

●切り替え作業に伴い1月13日はホームページのご使用をお控えいただきますようお願いいたします。

マイページにログインするために必要な「会員ID」「パスワード」は、1月上旬に、ご登録住所へハガキでお送りいたします。ハガキが届きましたら1月14日以降にマイページにログインし、登録情報の確認及び修正をお願いします。

## 会員マイページでできること

- ① 当会が受付しているセミナーは、申込みから参加費の支払い、受講票のダウンロードまで、全てネット上で行えます。
- ② セミナーで使用した資料をダウンロードできます（※資料提供可能なセミナーのみ）。
- ③ 興味のあるセミナーをマイライブラリーに登録しておけます。
- ④ 年会費の支払状況や決済方法、次回引き落とし日を確認できます。
- ⑤ 登録中の会員情報を自分で変更できます（住所・勤務先・メールアドレスの変更等）。
- ⑥ 西東京糖尿病療養指導士は認定期間中に取得した単位の確認ができます。
- ⑦ 会報「MANO a MANO」のバックナンバーを自由にご覧いただけます。

アカウント情報  
会員ID：00000  
パスワード：AAAAA



## 発行元

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012

国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No. 3-802

TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478

http://www.nishitokyo-dm.net

Email:w\_tokyo\_dm\_net@crest.ocn.ne.jp

## 編集後記



11月14日世界糖尿病Dayでは、各地のシンボルがブルーライトアップされたのをご覧になったと思います。西東京のシンボルの一つ、「スカイタワー西東京（通称：田無タワー）」でも、ブルーライトアップイベントが開催されました。18時、辺りがすっかり暗くなった頃、参加者のカウントダウンとともにタワーが青く点灯されました。少し寒かったですが、感動の一瞬でした。（広報委員 小林 庸子）